日本フィル「被災地に音楽を」訪問コンサート　レポート　<第36号>

＊被災地支援の訪問演奏は、2011年4月から2016年8月末までで通算197回となりました。　2017年1月

発行：(公財)日本フィルハーモニー交響楽団　〒166−0011 東京都杉並区梅里1-6-1　TEL 03-5378-6311　FAX 03-5378-6161

8月の下旬、日本フィルメンバーが宮城県山元町と名取市を訪れました。

8月26日（金）

山元町　花釜区交流センター　コンサート

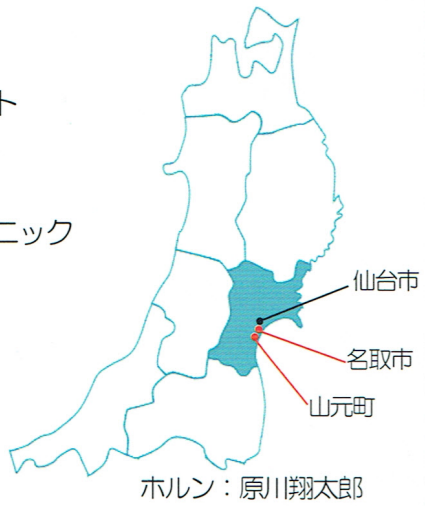
8月27日（土）

山元町　山下中学校・坂元中学校　クリニック

山元町　子どもセンター　コンサート

8月28日（日）

名取市　増田児童センター　コンサート



トランペット：太田恭史（賛助）／中里州宏　ホルン：原川翔太郎
トロンボーン：岸良開城　チューバ：黛拓朗（賛助）　打楽器：福島喜裕

「大きな絵をみんなでかこう！」のイベントで２年前に子どもたちが描いた絵の前を、みんなで行進！

8月26日

酷暑の東京を出発し、８月26日の昼下がりに宮城県は山元町へやってきました。仙台市から車で１時間ほど南下した沿岸部、震災後津波の大きな被害を被った地域です。今年の春に再建されたばかりの花釜区交流センターに到着。途中、かつて常磐線の駅があった場所を通りました。今では駅舎はその役目を終え、駅前商店の看板にかつての面影を見つけるだけです。

あいにくの曇り空で今にも雨が降り出しそうな空模様のなか、日本フィル楽団員とスタッフ、それに三菱UFJニコスさんのスタッフの総勢８名がマイクロバスで到着しました。迎えてくださったのは、町のお世話役、区の方々など。あたたかいおもてなしと笑顔にほっと一息つきます。まわりは津波ですべて流されてしまい、残ったところに草が生え放置されているような土地もまだ多く、その中に新しい家がぽつぽつと建っている状況です。今回コーディネーター役を担ってくださった方は、震災後、人びとの心を癒すお地蔵さん作りの活動をボランティアで続けていらっしゃる地元の方。無心に粘土をこねて、鎮魂の思いを込めて作られた何十、何百ものお地蔵さんを沿岸部の普門寺に奉納しているのだそうです。その方とのご縁もあってこのコンサートが実現しました。日本フィルの被災地支援活動は福島・宮城・岩手の東北３県を中心に訪れていますが、人と人のつなぐご縁で毎回の訪問地が決まっています。会場を訪れるというよりは、その土地の人びとに逢いに行く感覚を持っています。

コンサートは夕方16時開演。15時を過ぎると、どこからか次々と車がやってきて広い駐車スペースを埋めてゆきます。口々に近況を語り合う様子にこちらも自然と笑顔がこぼれました。東京からボランティアでやってきて普門寺に合宿している大学生も大型バスで到着し、小さな集会場は満員に。一曲目、トランペットの音色が鳴り始めた瞬間から小さな会場はブラスのハーモニーで満たされます。開いた窓から、遠く空へ海へと昇っていく音をぼうっと聴きながら目を閉じると、自然と祈りの感情が湧いてきました。一転、曲が終わりトランペット中里が話し始めると、とたんにアットホームな雰囲気に。彼の人柄もあって、冗談を交えながらの進行に温かい雰囲気につつまれます。お客さんとの会話もはずみ、初対面でも、異なる背景を持つもの同士でも、不思議と音楽のちからで心が通い合います。演奏会が終わった後には興味津々のお客様を相手に即席の楽器解説。訪れた子どもたちは大きなチューバにさわって少しだけ持ち上げてみました。その重さにびっくり！目を丸くしていました。

終演後もお話は尽きません。

8月27日

二日目はクリニックからスタート。山下中学校へ隣の坂元中学校からも生徒がやってきての合同クリニックです。会場となった山下中学校は震災後、避難所として使われていました。普段は違う学校に通う生徒たちが同じ部屋で並んで指導を受けます。楽員たちの温かくも厳しい指導に、真剣なまなざしでついていっていました。こうやって音楽に打ち込める瞬間を大切にし、作ってあげるのが私たちの役目でもあります。

上は打楽器福島、下はトロンボーン岸良の指導風景。

お昼前に指導を終えると、マイクロバスに乗り込み山元町に新しくできたこどもセンターへ向かいます。ここは震災後に新設移転された小学校と保育所が並ぶ一角に作られた複合施設。まあるい屋根をもち、壁がガラス張りになった開放的な建物です。震災後避難した人びとが色々な事情で町に戻ってこられないという現実。子育て世代の流出を食い止め、山元町が子どもたちにとってのふるさとであり続けるように、そんな強い思いが込められた町の新しいランドマークです。

こどもセンター外観